

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成16年  
6月号

毎月23日発行  
通巻406号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成16年6月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷 監  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★振替口座 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



紫陽花 生駒市 大津美代子さん 絵

編集部座談会

## 神ながらの宗教——法主様に聞く (下)

平成元(1989)年2～3月頃

瑞光院にて

### 霊界と、身近な交流を

岸野春子 紫陽花邑がどうか、いろいろな話を聞いてきたけど、霊界の人間と現界の人間が交流していくようにということ、「それが結論や」と、今、法主さんはズバリと言わはるんやなあと思つた。私などは長年、霊界の話を聞いていても実感というのなかなか難しいですね。聞いて抵抗がないぐらい、「はあーん、そうか」という程度にはなってるんですよ。法主さんは、それでええと言うてくれるけれども。

どっちかというと、そういうお話聞くの好きやし関心もある。興味本位におもしろがって聞くところも通り抜けたような気もする。だけど、そういうことが今一つはつきりとは分からない人間としたら、法主さんが言わはるようになっていきたい、沿うていきたい心はあるんやけど、どういふ心がけでいたらいいんでしょうか？

法主 人間の肉体というのは、宇宙の縮図やわね。

霊界と現界の関係を、自分で具体的に知ろうと思たら、自分の肉体と自分の持っている心というものとの関係を考えてええと思ふねん。心と肉体。心が先に走つたら、どうしても肉体の行動は後になるでしょ。ものを計画して、後で実行が付いていくんやから。

心の世界が、一人ひとり皆にあるわね。それが肉体という形と不離一体になつて

いる。切り離すこと出来へん。心で心配事が起こってきたら胃に潰瘍が起こってくるとか頭痛してくるとか、肉体に影響してくるやろ。

それを今度は大きく、宇宙の視点まで拡大したら、霊界における人と現界における人との因果関係になつてくる。一番身近なことで言うと、自分の先祖さんと子孫の問題やねん。広い全部の霊界と仲良うなれというのとちがうねん。形のある子孫の者と、肉体のない先祖さんというのは、血のつながった一番深い因果関係やねん。霊界人と現界人の関係では、先祖さんと子孫が一番強いんやね。世間にたくさんあつても、それは薄いわな。

因縁の濃い身近なところから、霊界の人と現界の人が仲良くなつていくということは、どんな宗教人でも言う。仏教で言うと、仏壇というのがあつて、先祖さんをそこでお祀りしてるわね。けれども、崇拜だけではあかんねん。交流が無かつたらあかんのや。

岸野 交流つて、どういうことですか？

法主 生きている我々のような肉体を持つている人間と、肉体を持たない人間との交流ではね、現界を中心として考えないとあかんねん。自分が飯喰うとしたら、「私はこれをいただきます。あなた達もおあがんなさい」と食べる物を霊界の人にお供えするということが大事やねん。量はたくさんでなくてええのや。

その「おあがんなさい」という相手の人も、生きていた時には飯喰うてた人やねん。肉体がなくなつても精神的満足というものがあるでしょ。現界の我々が形を通してお供えしてやると、相手の霊界人だつて満足することになるねん。慰めるということやわな。それが交流やねん、身近なところでは。霊界の人も腹減らすねんで。我々の夢の世界と似てるけどな。

お供えをする時でも、これを誰々にとか、うちのご先祖さんにとか言うねんで。そういうような言葉に添えてお供えしないと、相手に通じへんのや。また霊界つて妙なところやねん。喰いたかつたら八百屋に行つたら果物あるしね、食堂へでも勝手に食べに行つたらええやないかというようなものやけど、霊界はそれが出来へん。そこがまた難儀やねん。それで仏教でよく言う無縁さんがたくさん出来てくるんやな。

それが、一つの言葉を付けてお供えすると、先祖さんが仮に一億人おつたとしても、いっぺんに全部通じるねん。霊界というところは、一粒のご飯でもええねん。霊界と現界との結びつきで、それは毎日欠かしたらいかんわけや。

例えば外出する時でも、「ご先祖さんに、「これから行きましょう」「行って来ます」とか、また帰ってきたら「ただいま帰りました」と言う。生きて肉体を持つている家族の人がそばにおるみたいにして、自分の生活の中に入れていくねん。

私は、一々あまり時間もかけていられないから玄関で、パンパンと手を叩いて「行って来ます」て喋って行くねん。帰ってきたら、「ただいま」てみんなに言う。それが霊界人との交流やねん。一人芝居みたいなことやけどな(笑)。それをしたら霊界人が喜ぶねん。

一番喜んでくれるのは、家族がお互いに仲良うしていることやねん。親子も、夫婦も、年寄りも若い人も、皆仲良ういく、その雰囲気やまた霊界に影響を及ぼすねんな。それが霊界人と現界人の交流。

世界中の人間みんな、それが出来たら、社会は平和やで。喧嘩や戦争みたいなもの滅多に起こらへん。

岸野 えらい簡単なようですね(笑)。

法主 言葉で言うたら簡単や。ところが、どこの家庭でも滅多にそうならへんねん、なかなか。そういうような家庭を作らせるような指導をしていくのが、うちの宗教やわね。お経を唱えたり、神さんに手を合わせて拝むより、それを現実之心に出すことやな。

## 切り捨てるよりも仲間に入れる

法主 それでまた、この話に付け足すけれども、霊障害という問題を今日までたくさん扱ってきた。例えば、たまたまそこに家を建てたところが、その土地に固有霊がおつたと仮定するやろ。心靈学上、自縛霊と言ってるわな。先住の霊界人が居る所へ、現界人が知らんとブルドーザーで平らにして家を建てたら、「俺のおる所やのに黙って住まいしやがって」と腹立てるわけや。霊界人というても人間と同じ感情を持つてるねん。固有霊は喜怒哀楽もあるのやな。それでそこに住んだ人に、交通事故や病気というような災いが次から次から起こってくる場合があるんやな。

そういうような時にこそ、その固有霊を、自分の家族の先祖さんと同じような形でね、仲間に入れてあげるわけやねん。ちよつとお社でも作つて、今言うように毎日お供えしてやって仲良うすることによつて、災いがなくなつて、逆に幸せになつていくんやわな。そういう場合もあんねん。

世間では、よう祈祷師なんか霊障害をお祓いするとか言うけれども、切り捨てたらあかんねん。土地における霊やからね、なんぼ祈祷して切り捨てたかて、除けるものと違うねん。そこに住まいしてた人が逃げて行つても、「この餓鬼めー」と災いだけは付いて行きよるで。そやから切り捨てるよりも仲良うすることやねん。

けど、真言密教とかいわゆる修験道の人なんかやったら、護摩をたいたりして切り捨てること考えよる。それは相手を殺すことやな。それよりも、相手を生かして共に幸せに行くことを考えたらええねんけど。仏教でやつてる祈禱というのは、切り捨てが多い。あれは良くないねん。霊界人を切ったかて人間のの方が負けるもの。

私の場合は、殺すんやなしに逆に生かすねん。その家でお社に入れて、座を作つてやつて、家族の人と仲良うしてもらう。そうすることによつて逆に今度は守つてくれるねん。家族が一人増えんもの。

それが御霊鎮めみたままづというような形になるんやね。それはどこの宗教でもやつていることやけれど、祓うとか、切り祓うとか、除けさすとか、そういう覇道的な考え方ではあかんわ。もつと和をもつていかないと。

岸野 ご先祖さんにお供えするのでも、やつぱり時々忘れたり、ついうっかりしたりしますやろ。それは、よくないですか？(笑)

法主 かまへん。生きてる人間と同じや。すんまへん忘れてましたと言つて、そういうようなお詫びの仕方をしてると、霊界人というのは滅多に文句言わへんねん。

矢追房子 もし羊羹好きながあつたとしますやろ。ああ好きやつたなあつて食べてる時に思い出して、お供えせんでも、一緒に食べよか言つても通じるんですか？

法主 通じるよ。私はご飯食べる時、ここにおる固有霊の人に、パンパンと手を叩いて一緒に食べよと一言挨拶するねん。

杉本順一 四・五年前に、僕、調子が悪うなつて飯喰えんようになった時あんねん。一週間か十日程、注射してもらつて頑張つててんけど、ついに

法主さんのとこへ相談に行つたんやな。そうしたら身内に亡くなつた人がおつて、その家でもそれなりにお祭りしてたと思うんやけどやな、法主さんから見たら「届いてないな」て言われたことがある。ちよつと愕然としたけどな。

法主 気持で、本当に食べてほしいなと思つてへんからやろな。ただ供えてるだけやつたらあかんねん。心さえ真面目であつたらな、お経を唱えんでもええねん。お供えしてね、拍手打つて、ちゃんと気持を込めたら届くねん。

矢追鈴月 足痛い時なんか、お供えしにくい時あんねん。立つたままで、ごめんさい……。

法主 難しいことあらへん。霊界人でも融通つくねんで。

鈴月 この間、二月二十三日の申孝祭の日、ちゃんとお墓へも挨拶に行こうと自分は自分なりの心づもりしてたんよ。花も買つて、雨の中ピシヤコも切つてきて玄関へちゃんと置いてあつてん。それがもう何やかやで、行かれへんねん。法主様に、「按配言うといてや。こないしてちゃんと準備までしたんやから、気持ぐらいは通じるやろか」とまじめに頼んだわ。ほんまに毎年十二月四日から二月二十三日までの間は、何もなかつたらええのに」と思つて恐々として暮らしてんねん。

法主 ここでは大体ね、十二月四日の金鶏祭から、次の年の二月二十三日の申孝祭までの間で、何か起こることは、根を下ろしているねん。悪い事もその間に起こるし、ええ事も起こるんやな。

鈴月 今日までの例を見て、統計をとつたらそういうことやわな。

法主 うちの病院の院長さんが、ちよつどその間に決まつたからな、これはほんまもんやなあと思つてんのや。

済むまでは、と思うやろ。それが過ぎたら何かほつとするねん。

杉本 思つてますよ。

法主 この人は皆そう思つてるわ。悪い事も、ええ事もこの間に起こるつて。

岸野 私なんかは、聞くから思うだけで、本当に分かつてる訳ではないわね。

杉本 分かるほど、いろいろ起こつたらかなんやと素直に聞いといて、不都合はないわな。こんなことは人に説明する必要もないし、強制もされる必要もないし、自分の心掛けとかそんなものでええと思うんやけど。

法主 妙なもんやわ。前の院長さんは七月十五日に退職してはるやろ。次の院長さんについてはいろんな構想があつてん。私はもう、この話は十二月四日を過ぎんかつたら、具体的な動きにならんやろと思つてん。そしたら、ちよつど十二月入つてから具体的になつてきたわ。そして、今の院長さんが二月一日に就任してくれてはる。そういうようなね、妙な裏の動きがまたある。それまで人間としては努力をして、いろいろ手を打つてはくれるねんけど、うまいこといかへん。裏で糸を引いてるもんがあるねんな。我々は動かされてるだけやねん。

やつぱり、時というものがあるねん。今、木の芽が吹いてきてるやろ。これは、時やから芽が吹くのやわな。そういうような時というものが、人生にもあるねん。それはもう仏教でもいつも説明してはる。時というのは非常に大事なものやねん。今の院長先生は、大倭でええ苦労してくれはる人やなと、私はまた、そんな意味において喜んでるねん。

房子 霊界にも時はあるんですか？

法主 霊界には時間が無いねんけど、現界の人間

に時間があるから合わせてくれるんやな。  
平田弘之でも、棚ぼた式に待ってたらいけないですよ。やっぱり自分から願ったり動いたりしていかないと。

鈴木 棚からぼた餅を受け取るのでも、ぼやーっとしてたらあかんで。技術がいるわな(笑)。  
法主 そら人間として、精一杯の努力はしないとあかん。空鉄砲も大分撃たんといかんのや。

## こだまことだま

### ★紫陽花邑ホームページから

▼2004年4月7日

はじめまして。Iと申します。突然で申し訳ないのですが、紫陽花邑で働く人達は年金とか雇用保険といった社会保険には加入しているのでしょうか。それから、自由に使える個人的な生活資金は一切ないと思つていいのでしょうか。

●2004年4月8日

紫陽花邑のWebを管理しています青山法義と申します。お問い合わせいただきました件は何を見られたかわかりませんが、現在の紫陽花邑の形態は以前とは随分変わっております。

現在の紫陽花邑においての事業は家内工業でなくそれぞれ独立した事業所になっております。そこで働いておられる方もいろいろな所から来ておりますので、厚生年金や雇用保険等は世間と同じようになっています。経済生活も各自給料をもらっています。住まいにおいても紫陽花邑内で生活をしている人はごく限られた人だけで、ほとんどの人は紫陽花邑を中心に周辺で住まいされております。たんなる職場という意識だけで働きに来られてる方も最近は多くなってきましたが、一方では矢追日聖法主の精神は引き継がれています。簡単なお返事しか出来ませんがお問い合わせの答えになっておりますでしょうか。また何かござ

杉本 今日はこれぐらいにしておきましょうか。ありがとうございました。

法主 ま、そういうとこやな。これを書くとなつたら難しいで。みんなに分かり易いように、文章はまた、あんたら寄つて考えてくれたらええねん。私は結論をこうして言うてるけど、それをもっと引き延ばして説明してよろたら結構やと思う。

「それをどこまで理解できるか」やわの。  
いましたらお気軽にお問い合わせください。

▼2004年4月9日

早速のお返事ありがとうございます。

私は矢追法主の著書を読んだことがあり、紫陽花邑のWebで興味をもちました。信仰上では黒住教と禪教を一応信仰しております。

私は病氣などで長い間働くことができなかったのですが、寝て半畳、起きて半畳でもかまいませんので、できれば一度そちらで働かせていただけないでしょうか。給料も当分安くてかまいません。

●2004年4月9日

興味を持たれた経緯はわかりました。大倭紫陽花邑で働きたいということもわかりましたが、現在の大倭は、福祉事業を筆頭に病院、建築、印刷と専門職ばかりの事業所になっております。大倭で働きたいという気持ちはわかりますが昔のように「はいおいで、その辺に空いた部屋があるから……」というようにはいけません。

あなたのように大倭に来て住みたいという強い気持ちを持ちながら、紫陽花邑の事情やそれぞれの事情で来られない方もたくさんおられます。同じ北海道から掲示板に書き込みされている方もおられますが、どこであろうと、それぞれの場

でやりながら精神的なつながりを持っていく道もあると思います。

大倭にどうしても住みたいという気持ちを抑えずに東京から紫陽花邑の周辺に引っ越してきて住まいしている若者もいます。その人は仕事を紫陽花邑でするのでなく自分で仕事を見つけて生活しておられます。その上で紫陽花邑で自分のできることを見つけるというスタンスで生活されています。

また今も福井から電話が入りましたが、彼は月1回禪会に来て、前後2〜3日は矢追日聖法主のお話の録音テープをCD化する作業をするために交流の家に宿泊されています。

紫陽花邑というところは誰に強制されるでなくそれぞれが自分で出来ることを見つけてやっていくというやり方でもなっています。

宗教の信仰のことも書かれていますね。大倭教というのがありますが、この宗教は宗教団体を持たない(信者は1人もおりません)。分類すれば神道です。大倭に来るのに今までの宗教を捨てて大倭教に入るといふことはしなくてよいです。

大倭教の教えは一口で言えば、「ご利益信仰でなく現界と霊界(姿のある人間と姿のない人間)が仲良く暮らしていくということを理解した上で生きていく」ということになるかと私は思っています。これが難しく私も未だに理解できていません。今信仰されている「黒住教」を否定することなく「霊界人と仲良く付き合っていく」ということができればそれで良いのです。

紫陽花邑に住み働きたいということはわかりませんが、理想だけで大倭に飛び込んでこられるよりも、時間も費用もいりますが一度大倭に遊びにこられ、こちらの空気を吸った上でゆっくりとお考えになればいいがですか。

# 河内「新日」参記

こもれる魂魄の地をたずねて（十七）

兼田 隆

四月十七日早朝、米子市福市の安楽寺（時宗）というお寺を訪れました。このお寺には、後醍醐天皇の皇女瓊子内親王の墓所（写真①②）と歯形栗という不思議な栗の木があります。



▲① 瓊子内親王は、天皇の

隠岐配流のうちに、童姿に身をやつしてこの地までこられました。素性が発覚したために隠岐へ渡るのを許されず、悲しみのあまり十六歳で尼になり、八年間を安楽寺にて過ごされて、二十四歳で亡くられています。

歯形栗とは、土地のものが差し上げた栗の実を皇女が歯にあて、もし春になって芽をふいたならば、天皇の運が開けるかもしれないと、願いをこめて土に埋められたところ、不思議にも翌年に芽をふき、天皇は都にお帰りになることができ、栗の実には、くっきりと歯のあとがついていたという話しから出た名前だそうです。現在も何代目かの栗の木にはなっていますが、歯形が残っています。

す。

八重桜が散り始めた境内を散策していると、任職らしき高齢のご老人が手招きしておられ、そばに寄って行くと「今から鐘を撞くので撞いてみなさい」とのお言葉をいただきました。そのお言葉に甘えて鐘を撞かしていただきました。住職からの「人との出会いは、点と点です。一期一会の出会いを大切にしています」とのありがたいお言葉に、幸先の良い、旅のスタートがきれたと自己満足しながら安楽寺を後にしました。

▲③

次に向かうは米子城跡（写真③）、国道9号線沿いにあるこの城跡は「さても見事な米子の城は、天守九つ櫓が七つ、裏は大海四つの海」といわれており、現在は二十分もあれば天守閣跡に到着します。少々寝不足ぎみの身体を奮い立たせ、山道をゆっくり登りきり、天守閣跡より絶景の中海を望む事ができました。



城下を散策していると案内板が視界に入り、見ると「柳生奮戦の地と飯山城跡」とあり、「あの奈良の柳生が……？」と意外でした。現地を訪れると新たな発見や出会いがあるものです。案内板には「慶長八年（1603年）主君中村一忠が家老である横田内膳を暗殺してしまいます。世にいう「米子城騒動」の発端です。その事を知った家臣達がこの飯山城に立てこもって激しい戦いを始めます。なかでも横田側の食客剣豪の柳生五郎右衛門（但馬守宗矩の兄）は十文字槍を揮い壮絶な最後を遂げる」と書かれていました。

案内板から飯山城跡を望むと山道あり、階段あり、休みながら登って行くと十分程度で頂上に着きます。城跡らしきものは見当たりませんが、敵地であった米子城跡を一望することが出来ました。次に訪れた所は、初代米子城主の菩提寺感應寺というお寺です。幼くして権力争いにまきこまれ、先ほどの「米子城騒動」をおこしたのですが、二十一歳の若さで急死した中村一忠の墓が存在します。皮肉なことに、子供のなかった中村氏は断絶してしまったそうです。山の中腹にある中村一忠公の墓石（写真④）に合掌して、次の目標地である島根県広瀬町に向かいます。

▲④



風ぐるま \* \* \* \* \*

## 軍隊の思い出

青山 白元

昔、我が国に軍隊がございました。今、私なりのたどたどしい記憶に基づき書き綴ってみます。

戦後早くも六十年、今、軍隊と申ししても、知る人はおそらく少ないと思います。いつ制度が設けられたかは、私は定かに知りませんが、私等の知るところでは、男子二十歳——その頃は生まれたらその日から一歳という数年が普通でしたから、二十一歳に成りましたら、徴兵検査がございました。

役場からその通知が届きましたら、今で言う障害者であろうと何であろうと、その指定の場所へ行つて体格検査を受けました。

その頃の言葉で申しましたら、私は昭和九年兵でございました。ところが徴兵検査の少し前頃、脚氣と盲腸の手術をしまして、検査当日に、その頃は尺貫法で十二貫七百匁（※48kg弱）しかありませんでした。他に何も悪いところはありませんでした。結果は丙種合格に終わりました。検査官は、大分迷われたようですが、幸か不幸か私は軍需工場の砲兵工廠に勤めておりましたので、「せめて十三貫あつたら申し分なく甲種合格だが、何分、君は兵器製造の第一線に働いておるのだから」と一面残念そうに丙種合格に成りました。

後になつて分かつた事でしたが、もし私が現役で入隊しておりましたら、今の私はいなかったでしょう。と申しますのは、現役で入隊したであつ

ただろう部隊は、中支——今の中国で、全滅致しました。

昭和十六年十二月八日払暁、日本の艦隊がアメリカの真珠湾を奇襲攻撃致しまして大東亜戦争へと拡大していきました。戦争が長引けば、物量を誇る米国は力を増して参りました。日本魂という心持ちをいくら誇つても、やつぱり実力では勝つて次第に追い込まれ、沖繩戦そして次は本土決戦を唱える頃、昭和十九年六月、私達丙種の者にも教育召集の名の下に令状が参りました。

当時は、「国に一旦緩急アレバ、義勇公ニ奉シ、以テ天壤無窮ノ皇運を扶翼スベシ」と教育勅語に示され、一にも二にもそれを基に政治一切が行われ、もし反すれば国賊の汚名を着せられ最悪の場合には銃殺刑となり、家族の者は外も歩けないという厳しい定めがございました。

軍隊に入れば、朝も晩も総てが喇叭の合図で行動しました。先ず朝の起床喇叭で始まり、私情は一切許されません。

それと軍隊では先ず声の大きい事。声が大きいと気合いの入つている奴だと褒められます。声が小さいと、「便所へ行って参ります」と言つておる場合でも、意地の悪い古参兵などは「もう一度！もう一度！」と言ひ、もはや辛抱できずその場に小便した兵もありました。私はお陰さまで声の大きいのと、柔剣道の真似事をちよつと習つておつたのが、軍隊では本当に役に立ちました。中隊では常にトップに立たされました。それはまた上官にも恵まれたのだらうと、先だつて亡くなられるまでずつと、当時の上官に時季の挨拶状は致しておりました。

とにかく軍隊は訓練、訓練でございまして、優秀な頭腦の持ち主であつてもその才能を特別に認められるまでには、かなりの時間を要したように

思います。入隊致しましてから一期の検閲が終わるまで、寝ても覚めても皆一列平等に鍛えられました。いかに立派な理論でありまして、それは一切通用しません。そうした点では、生来賢明なお人でも体力のない方は、人一倍苦勞されたのではないのでしょうか。

また軍隊は階級によつて星の数が定められておりました。そして星一つ違えば、いかに正論でございしても、その階級の壁は破れませんでした。上官に反抗したが故に、二度と戻らぬ結果を迎えた人も多くおられたと思います。

一日の訓練が終わわり、夜の点呼で、新兵には地獄と成りました。週番士官が回つて参りまして、班毎に点呼を受け、古参上等兵の「点呼！」の命令にて、「一！」「二！」「三！」……と番号を唱え、「何班は総員何名、欠員何名、その欠員は何々にて何処に行つており現在何名、異常ありません！」と報告致しまして一応点呼は終わります。さあ、それからです。今日一日の反省会です。

まず何か事故か過ちのあつた者は、「二歩前へ」と名指しされます。整列しておる中から前へ出ますと、素手で叩く場合はまだしもの事、革のスリッパで顔の形が変わるほど叩かれました。その当時はそれが当然のように行われていたのです。時には入隊以前の社会では手もつけれないと言われておつた人が、二年間の軍隊生活をして、上等兵に進級して帰つて来たというような方もおられました。

回顧致しまして、今の時代の方達は、幸せだと思ひます。昔の人はアホな事をしておつたと思われましようが、その時代では、国を護るといふ名の下に憲法に定められ、実践されてこられたと思ひます。事の善悪は別に致しまして、この拙文が何かの参考に成り得ましたらと願う次第です。

# 「隆家」の頃の法主 (9) 今井富蔵氏との出会い

矢追 隆義

東京から大和の地に戻った兄は(※昭和16年から19年頃、家族を連れて東京で活動された)、敗戦により大倭神宮で神示を受け、やがて街頭宣布に出ることになる。

同じ頃、富雄村からは民生委員の委嘱を受けその総務をつとめた。民生委員は、受持ち区域内の貧困家庭を訪問し、実情を見聞したケースを月末に持ち寄り救済の要否を決定するのが主たる仕事で、最終決定権が総務にあった。県内各郡部には、総務連絡協議会が生まれ、定期的にケース研究会が持たれていた。生駒郡の会合に、兄は富雄村から出席していたわけだが、昭和村から出席されていた今井富蔵氏(写真①)が、いつも神代時代のような服装で来ている兄の姿に関心を持つようになる。ある会合の折、たまたま兄の隣りに座られた。世間話や障害者を持つ家庭のケースにふれる内に、やがて話が今井氏の家庭内問題へと及ぶ。

応答する兄の言葉の一言一句に胸を打たれるものがあった。感動した今井氏は、是非、菅谷の邑へ伺いたいと言われたという。今井氏の目に映った邑人達の姿は、老いも若きも、男女を問わずお互いが扶け合い、軍手織や農耕等に取り組んでいる姿であった。しかし、電気もなく水道も



昭和30年12月4日  
大倭安宿苑地鎮祭

なく、水は専ら池の水を利用して。さらに驚いたことには、兄の家族まで邑人の中で一つの財布の下で共に働いている。兄が私有財産を投げ出してまでも、このような方法で慈善事業的な仕事に取り組まなければならぬだろうかと、真っ先にこのような疑問を持ったと、後日、今井氏は語っている。兄に帰依した今井氏は、兄にはない凶太い負けずぎらいの性格と、豊富な社会的人脈の持ち主で、菅谷の地に公的社会福祉施設を設置すべく、常に兄の助言を受けながら、その基礎作りを邁進し始めた。その第一歩として彼が考えていたことは、奈良県民生委員連合会の岩井事務局長(②)を、兄と会わせることであった。

話を聞き、邑人の働く姿をながめ、感謝と激励の言葉を残して帰られたそうである。一ヶ月後、共同募金会会より思いもよらない高額(百万円)な配分金額の決定通知を受けることになる。これをきっかけにして動かされた(※配分だけでは資金不足であったが市会議員の松本伍史氏(③)やその長男で製材業を営んでいた雅司氏(④)―現大倭病院院長の父―らの協力もあり)、県内初めでの救護施設「大倭安宿苑」が法人

格をもってうぶ声を上げたのである。当時の菅谷は僻地と言ってよく、砂茶屋や東坂からの通路はリヤカーがやっと通れるような野道しかなかった。そんな立地条件に対してはまた、当時の井谷千彦県厚生課長(⑤)の英断があった。お陰で邑にも電灯が付き、水道も引かれ、邑人もこの施設を中心に活躍することになる。救護施設(※法人が複数の施設を経営するようになって須加宮寮と名付けられた)に続き、特別養護老人ホーム長曾根寮、さらに奥田奈良県知事のたつての要請により身体障害者療護施設奈良県立菅原園を受託経営する等、今日の紫陽花邑へと逐次、姿を変えていくのであるが、いずれにしろ今は亡き今井富蔵氏(※昭和47年帰幽)は、大倭の邑人にとっては忘れてはならない恩人である。

「こだまことだま」 2004・5・15  
ウクライナ 竹内高明

# あじつ日記

5月13日 10〜15時、雨のため大倭病院玄関ロビーで看護の日イベント。地域の皆様への日頃の感謝を込めて健康相談・健康チェック（骨密度・血圧・体脂肪の測定等）を行いました。

5月15日 大倭神宮月次祭。

午後5時から大倭会館で、FIWC関東委員会の原田僚太郎さんが中国ワークキャンプの駐在員報告会をしました。

5月16日 雨の一日となりましたが、京都の高山寺および神護寺方面への第279回大倭会文化行事のバス旅行に、35名が参加。高山寺は光仁天皇の勅願による開創（平成6年世界文化遺産登録）。鎌倉時代に明恵上人が出て多くの人が帰依した寺です。何宗でもない、あえて言うなら釈迦宗ですというお寺の人の説明には共感の声が上がっていました。国宝「鳥獣人物戯画」

**大倭宿苑 夏まつり**

不用品/バザーの開催も、いつもより多くのお品をご用意しております。

7月31日(土) 午後3時〜

あすか射撃場にて

お問合せ 安宿苑事務局 TEL 0742-48-3221 まで

を見たり、新緑の中、ゆっくりお弁当や散策を楽しみました。



明恵上人廟では薄日がさしました



(写真は野 保夫さん)

神護寺へバスで移動の際、何か機嫌を損ねた昇ちゃん逃走。マイカー参加の野さん夫妻に拾われる一幕もありました。神護寺は平安京造営の責任者、和氣清麿公が建てた寺です。湯浅芳郎さんの話「最近、参加者が多くとても嬉しい。文化行事のお世話をして次回で百回目になるが、その土地の風物だけでなく先人の心を知ること面白さだと思う」。杉本順一

5月23日 大倭大本宮月次祭。この日は都合で午前11時から祭典とご案内していたが、すっかりしていつもの午後2時にお参りされた方が9名程。折からのわか雨で足止めされ、ゆっくりと話などしました。

6月6日 大倭神宮月次祭。尼崎市の岡部光行さん（事務所ではハープ演奏をされる）・今枝尚子さん、東京の鈴木聡さん（交流の家に一泊）がお参りされました。

6月9日 東京小金井市の磯崎恵午さんが来邑されました。大倭安宿苑では5月13〜14日 10名の新任職員研修会。各施設や紫陽花邑内の各事業所の見学もしました。

5月中旬、建て替え中のストレス解消のため、近隣のコンビニ、喫茶店等へ「ちよびつと外出」を始めました。

5月22日 朝、ロータリークラブのメンバーである矢追家麻呂部長さんと、岸田哲さんの通訳で名刺交換をされました。

午後、交流の家が3月31日に特定非営利活動法人（NPO）として認証、4月12日に登記されたため、今後の運営について話し合いがありました。

夜は、元管理人の飯河さんの四郎忌も兼ねて、ゴパールさん達の歓迎会。FIWC・邑・安宿苑等から多様な顔ぶれが集まりました。

参加して、恒例の安宿苑卓球大会の熱戦。  
(八重垣園)

5月22日 俳句の会。「雨上がり谷間の木立緑増す」「万緑や古いの身いやし有馬の湯」「外に出てそぞろ歩けば竹の秋」

## あんない

\*月次祭（大倭神宮）  
7月6日（火） 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催第四二八回祝会  
7月11日（日） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

\*月次祭（大倭神宮）  
7月15日（木） 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭（大本宮）  
7月23日（金） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

**田んぼ通信**

**草取りのご案内**

6月5日、晴天と爽やかな風に恵まれ、参加者24人で田植えは順調にすみました。若芽は見事に育っています。例年有志で細々としていた草取りに、今年から皆さんのお力をお借りしたいと思います。よろしくご助力下さい。

**7月4日(日)** 午前10:00〜 小雨決行(大雨は1週間後)

※2時間弱を予定しています。  
※泥で汚れてもいい服装で。(着替え、タオルは各自で準備)  
※飲み物は用意します。

連絡先 TEL 0742-41-4615 (双葉館)